

1. 実証課題名 露地野菜のかん水方法と水利用効果について

2. 目的 露地野菜のかん水方法並びにかん水器具の調査検討  
キャベツの水利用効果確認

3. 実証実績 ①栽培実績 前作物名(さつまいも) 実証作物名(キャベツ)

区分	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
作付体系		○	—△—			—×—	—×	
水利用(回数等)					2回	↔ 3回		
作業内容			定植			収穫開始	収穫終了	

(凡例：○播種，△定植，×収穫)

②実証内容

- ア) 品種名 夏晴れ
- イ) 定植日 平成16年9月22日
- ウ) 収穫日 平成16年12月14日～1月18日
- エ) 作式 畦幅60cm×株間33cm≒5,000株/10a
- オ) かん水方法
  - ア) 方法 ろ過機，スミチャージ，定流量停止弁，キリコA
  - イ) 時期・量 平成16年11月22日～12月20日までに5回×1.5m<sup>3</sup>  
散水時に葉面散布剤1kg(スーパークロロゲン青)×5回を液肥混入器で散布

4. 収量調査 (調査月日 平成17年1月18日)

区分	収量 (kg)					単価 (円)	生産額 (円)	経営費 (円)	所得 (円)
	8玉	10玉	外		合計				
実証区	4,193	176			4,369	71	308,078	56,300	251,778
対照区	3,439	264			3,703	59	218,677	47,700	170,977
比率	122%	67%			118%	120%	141%	118%	147%

5. 結果と考察

キャベツにおけるかん水効果とかん水方法の実証を計画していたが、定植期から生育期にかけて、平年を上回る降水量であったため、生育初期から中期のかん水効果の実証はできなかった。

キャベツの生産販売状況は、台風等の影響で全国的な野菜不足による輸入品の急増や価格高騰による買い控えから、販売単価が落ち着きを見せ始めていたことから、生育促進による所得増加を目的に生育後半に散水チューブによる葉面散布剤施用の肥効実証を行った。

散水資材は、キリコA型を使用し、葉面への散布が可能になるよう、約40cmの垂鉛パイプを活用し、散水チューブをキャベツ上面の高さまで上げて設置した。

実証成績は表の通り、かん水区の方が生育の前進化が図られ、対照区と比較すると出荷数量が118%で、販売単価の推移から所得向上も図られた。

キャベツのかん水方法のひとつとして、噴霧型の散水チューブを活用し、葉面散布剤施用での肥効実証成果が得られたが、設置直後に散水チューブをカラスに破られる被害に遭ったことから、防鳥対策も併せた設置が必要である。

